

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

入社試験がはじまります

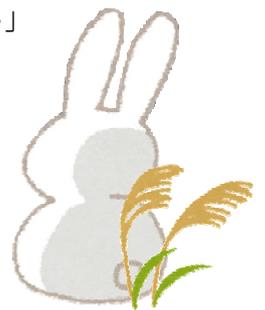
いよいよ来春入社予定の新卒高校生の入社試験が迫っています。先生方には大切な教え子たちの進路選択に立ち会う最も神経をすり減らすこの期間に、当社の採用担当者が進路室に何度も御邪魔する(した)失礼をこの場であらためてお詫び申し上げます。

民間企業が新入社員を採用することは決して当たり前のことではありません。企業にしてみれば受け入れ準備にあたり、事務用品からパソコン、貸与する携帯電話、デスク、チェア一式、車両等を用意するとなれば一人につき30万~50万以上の経費支出に及ぶことは珍しくありません。

そういったコスト意識を新入社員に理解させるのも導入研修では大切なことです。企業人として会社の収益に貢献する以前に、会社は社員ひとりひとりの成長のために投資をしていることを理解してもらうのです。

学校生活の延長の感覚で、一定の時間さえ会社に居れば自動的に賃金が貰えるといった甘えの認識と現実の仕事との差異こそ、新入社員達が最初に超えなければいけない試練でしょう。

あまり最初から厳しい現実ばかり話すと「自分はブラック企業に就職してしまったのか」なんて笑えない相談を受ける羽目になりかねない難しい時代です。新社会人には、「いつまでも社会の荒波から逃避してばかりはいられない。上司、同僚のサポートは大切だが、ストレスを背負い、消化する強さを身につけて欲しい。仕事を通じて体得するたくまさが人を成長させる。」と伝えたいのです。学校教育と企業による社員教育は社会システムの中では連続性があるのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎